

令和6年度 医歯工法プロ ワークショップ「皮下出血観察」を開催

医歯工法プロでは、令和6年8月25日（日）に受講生を対象にしたワークショップを開催しました。

当日は東京医科大学 基礎社会医学系 法医学分野の 内ヶ崎 西作 教授をお招きし、2種類の超音波画像診断装置を用いて、実習を行いました。

はじめに超音波画像診断装置の基本原理や特徴、装置使用方法の解説を座学にて学びました。続いて、実際に小児の超音波画像診断トレーニング用モデル体を対象として、超音波画像診断装置を用いた体内臓器の観察方法を学びました。



また、異なるタイプのプローブを有する超音波画像診断装置を用い、皮下組織の見え方、および皮下出血の観察方法について、実演していただきました。

その後、受講生は2グループに分かれ、全員が装置を触りながら、内ヶ崎 教授から直接の指導を受けつつ、超音波画像診断装置を用いた観察方法、および実際の画像の見え方やその判断方法について学びました。

本装置を扱うのは初めての受講生ばかりで、装置の扱い方、画像の見方、共に苦戦していましたが、専門家から直接の指導を受けながら装置に触れる貴重な機会となりました。

超音波画像診断装置は医療関係者ではなくとも装置を扱うことができ、各都道府県の警察に整備され、司法分野でも活用する場面があります。児童虐待の関連分野においても、皮下出血や体内臓器の損傷確認などで活用していくことが期待されます。

